

研究班番号【32】 いつまで経っても堅苦しい？～教科書と日常会話との差異～

英語班：黒澤 陽菜、巽 風菜、前田 佳純

Abstract

The purpose of this study is to reveal the difference of interpretation between Japan and English speaking countries. The research shows that Japanese students misunderstand the expression of English sentences which are not used in English speaking countries and they interpret the meaning of English sentences by mistake. This study concludes that English teaching materials in Japan include expressions that cause misunderstanding among native speakers and it is necessary to improve the quality of English education.

要約

本研究の目的は、日本の英語教育の解釈における日本と英語圏との誤差について改善点を明らかにすることである。調査において、日本の学生は、本来使われていない英語表現や、意味の解釈を誤って理解していることがわかった。従って、本研究では、日本の英語教材にはネイティブスピーカーに誤解を与えるような表現が含まれており、英語教育の改善が必要であるということがことが結論付けられた。

1. はじめに

グローバル化が進む社会において、英語を正しく使用することは必要不可欠である。しかし、日本の学生は、義務教育で英語を学び続けているにも関わらず、ニュアンスが相手に適切に伝わるように話せていないことに疑問を持った。そこで、教科書に掲載されている英語の文章が参考になっていないのではないかと考えたため、研究するに至った。なお、本研究では英語を母語とする人をネイティブと定義する。

2. 研究手法

《実験1》

高津高校の2年生を対象とする英語に関するアンケートを行った。

《実験2》

日本の高校生が普段英語の授業で使用している教材をネイティブスピーカーに自然な文章に直してもらい、その文章と教材の文章との差異から日本の英語教育をどう改善すればいいかを考えた。

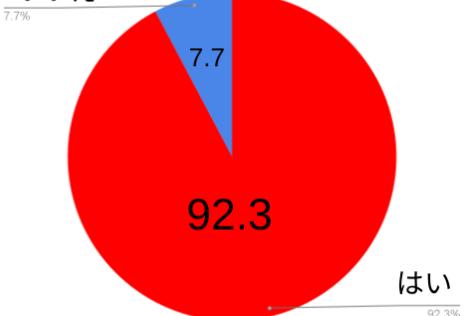
3. 結果

《実験1》

「英語を話せるようになりたいですか。
はい→92.3% いいえ→7.7%

英語を話せるようになりたいですか

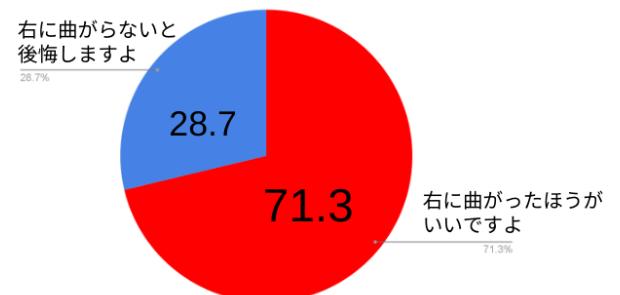
いいえ



「”You had better turn right.”をどのようなニュアンスで捉えるか。」

右に曲がったほうがいいですよ。→71.3%
右に曲がらないと後悔しますよ。→28.7%

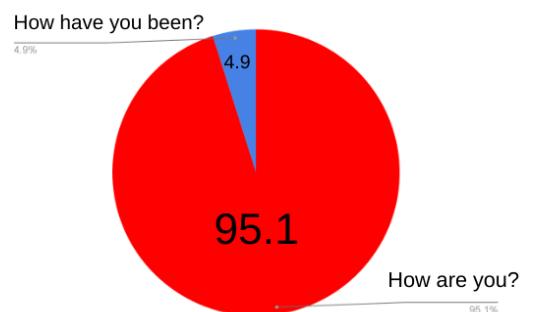
下の文はどのようなニュアンスで捉えますか
“You had better turn right.”



「どちらの表現のほうがよく使いますか。」

How are you? → 95.1%
How have you been? → 4.9%

どちらの表現のほうがよく使いますか

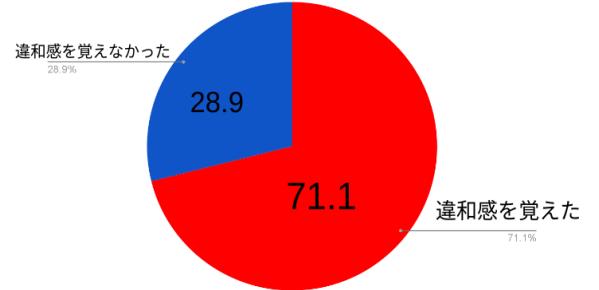


《実験2》

「リスニング教材の文章を読んで違和感を感じましたか。」

違和感を覚えた → 71.1%
違和感を覚えなかった → 28.9%

リスニング教材の文章を読んで違和感を感じましたか



寄せられた意見

- ”You had better.”という表現は強く感じる
- ”I’ll show you.” の使い方に違和感を覚える

4. 考察

英語を話せるようになりたいという回答が9割を上回っていたにも関わらず、英語圏では好まれない”How are you?”を選んだ生徒が多かった。また、7割以上が回答した「右に曲がったほうがいいですよ」は、学校で一般的に教えられる表現であるが、ネイティブスピーカーにとって脅迫的であるものであることがわかった。教材の文章に違和感を覚えたネイティブスピーカーは約7割で、”I’ll show you.”など、使い方に違和感を覚えるような表現が使われていることも見受けられた。このことから、日本の英語教材では、英語圏であまり馴染みのない表現や、ニュアンスに違いのある表現が多用されていると考えられる。

5. 結論

学校で学ぶ英語表現をそのままネイティブスピーカーに対して使うと、違和感を与えかねないということが分かり、この問題を解決するには授業で英語を実際に話す機会をより多く設けることが効果的だと考えられる。今後として教科書以外の英語教材でも同様の研究を行い、日本の英語教育の改善点を見出す必要がある。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

啓隆社 『Listening Essentials 2.5』14ページ